

令和5年度

試 験 曲

音楽学部個別学力検査等

＜一般選抜＞

＜学校推薦型選抜＞



沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

目 次

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	1
各専攻試験において入学前に身につけておいてほしい力	3
I 一般選抜	
1 試験科目一覧	5
2 併願について	6
3 試験内容及び試験曲等《専攻試験》	7
(1) 音楽表現専攻声楽コース	7
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	8
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	9
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	11
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	15
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	16
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	16
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	17
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	17
(10) 社会人選抜（琉球芸能専攻）	17
《音楽に関する基礎能力検査》	
(1) 楽典	18
(2) 聴音	18
(3) 新曲視唱	18
(4) 副科ピアノ	18
(5) 音楽又は舞踊の実技	18
II 学校推薦型選抜	
1 試験科目一覧	19
2 試験内容及び試験曲等	20
《専攻試験》	
(1) 音楽表現専攻声楽コース	20
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	20
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	20
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	20
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	21
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	21
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	21
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	21
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	21
《音楽に関する基礎能力検査》	
(1) 楽典	22
(2) 聴音	22
(3) 新曲視唱	22
(4) 副科ピアノ	22
(5) 音楽又は舞踊の実技	22

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の養成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

【求める人材】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
- 2 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
- 3 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
- 4 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
- 5 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語の2科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等）及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等）及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの

推薦書を活用します。

- 3 社会人選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視し評価します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育
- 2 専門教育（主要科目）における、4年間にわたる段階的履修
- 3 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
- 4 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全額教育科目の編成
- 5 学生の多様な関心や課題発見を促し自律的に学習できる選択科目の編成
- 6 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通して、芸術（音楽・芸能）と社会との関係を学ぶ科目の提供

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で、授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について体系的に理解している。
- 2 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
- 3 課題解決に必要な汎用的能力（論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等）を身につけている。
- 4 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
- 5 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 6 獲得した知識や能力等を活用し、自らの課題を発見し解決する能力を身につけている。

各専攻試験において入学前に身につけておいてほしい力

【音楽表現専攻】

声楽コース ＜課題曲、自由曲、コールユーブンゲン＞

【知識・技能】

- 声楽実技における基礎的能力（無理のない発声、正しい音程・リズム・発音、コールユーブンゲンを学習済み）
- 音楽の基礎的能力（読譜力、ピアノを使用しての音取り、歴史や文学に関する基礎知識）
- 語学力（イタリア語やドイツ語の辞典の引き方がわかる、発音記号が読める）

【表現力・思考力・判断力】

- 主体的な表現力
- 他の楽器ピアノなどや合唱アンサンブルなど他者とコミュニケーションをとりながら楽曲を仕上げていく能力

ピアノコース ＜課題曲 A, B, C＞

【知識・技能】

- ピアノの基本的奏法における技術的習熟
- スケールやアルペジオの継続的訓練、ソルフェージュ、楽典
- 正確な読譜力

【表現力・思考力・判断力】

- 各課題における様式の理解
- 演奏における自発的表現力
- 音色の変化と多様性、完成度

弦楽コース

【知識・技能】

- 基礎的能力（弦楽器の取り扱い、フォームや運弓法等）
- 音階演奏への習熟（数多くの調性に慣れておくこと）
- 課題曲に含まれる様々な演奏技術への習熟
- 様々な音楽の鑑賞を通じた表現法に対する知識

【表現力・思考力・判断力】

- 上記、演奏表現に必要な知識や技能を関連付けて運用する力
- 楽曲を短期間で仕上げていく能力
- 表現意欲を備え、個性豊かに器楽表現を創意工夫する力

管打楽コース ＜音階、課題曲＞

【知識・技能】

- 管打楽器の基本的な奏法（演奏フォーム、自然な発音、手指のコントロール等）
- 豊かに響く音色
- 音程、リズムの正確さ
- 楽典の知識（楽語、表示記号、調性等）

【表現力・思考力・判断力】

- 楽譜を正確に読み演奏できる力（アーティキュレーション、ダイナミックス等）
- 楽譜から読み取れる曲想を表現できる力
- 作品の構成を理解し、表現できる力

作曲理論コース ＜作曲実技、口述試験＞

【知能・技能】

- 作曲実技における基礎的能力（手書きの記譜法についての知識、和声学の知識）
- 音楽の基礎的能力（楽式についての知識、楽器についての知識、調性音楽に関する知識）

【表現力・思考力・判断力】

- 主体的な表現力（音楽への深い興味）
- 提出作品の理論的な説明

【音楽文化専攻】

沖縄文化コース・音楽学コース ＜小論文、口述試験＞

【知識・技能】

- 課題図書に対する理解（※一般選抜入試のみ）
- 音楽や舞踊に対する知識・理解、関心・問題意識

【表現力・思考力・判断力】

- 論理性、思考力
- 独創性、発想力
- 文章構成力、表現力（誤字脱字や文章の技術等も含む）

【琉球芸能専攻】

琉球古典音楽コース ＜調弦、課題曲、自由曲＞

【知識・技能】

- 基礎的能力（三線・箏の取り扱い、構え方、バチ、爪使い）
- 正確な調弦の技術（調子笛を使用し、様々な音高を基音とした調弦ができること）
- 課題曲に含まれる様々な演奏技術への習熟

【表現力・思考力・判断力】

- 上記、演奏表現に必要な知識や技術に関連付けて運用する力
- 楽曲を短期間で仕上げていく能力
- 表現意欲を備え、個性豊かに琉球古典音楽や沖縄音楽表現を創意工夫する力

琉球舞踊組踊コース ＜課題曲、自由曲、初見演技、初見視唱＞

【知識・技能】

- 基礎能力（姿勢、構え方、歩み、目線）
- 正確な技術（所作と音曲との合わせ方、リズム感）
- 課題曲に含まれる様々な演舞技術への習熟

【表現力・思考力・判断力】

- 上記、琉球舞踊の表現に必要な知識や技術に関連付けて運用する力
- 舞踊組踊の所作や台詞の特徴を捉え、模倣する力
- 表現意欲を備え、個性豊かに琉球舞踊、組踊の表現を創意工夫する力

<一般選拔>

I 一般選抜

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・ コース名		専攻試験 (第1次試験)					音楽に関する基礎能力検査 (第2次試験)					面接
		実技 検査	コールユー ブ・ソング ン	初見 視唱	小論文	口述 試験	楽典 (注2)	聴音	新曲 視唱	副科 ピアノ	音楽又 は舞踊 の実技 (注3)	
音楽表現	声楽	◎	◎				◎	○	○	◎		◎
	ピアノ	◎					◎	◎	◎			◎
	弦楽	◎					◎	○	○	◎		◎
	管打楽	◎					◎	○	○	◎		◎
	作曲理論	◎				◎	◎	◎		◎		◎
音楽文化	沖縄文化				◎	◎	◎				◎	◎
	音楽学				◎	◎	◎	○	○	◎		◎
琉球芸能	琉球古典音楽	◎			※	※	◎					◎
	琉球舞踊組踊	◎		◎	※	※	◎					◎

注1. ◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目、○印は、「いずれか1つの科目を選択する」を示す。

※印は、社会人選抜のみ（但し音楽に関する基礎能力検査は受験しない）

注2. 沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻及び音楽学コースの楽典とは別問題とする。

注3. 音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

注4. 声楽、弦楽、管打楽、琉球古典音楽コース入学志願者の専攻試験の種目は以下のとおりである。

(声楽) ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(弦楽) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、
トランペット、テナー・トロンボーン、バス・トロンボーン、チューバ、
打楽器 (A: 小太鼓、B: マリンバ)

(琉球古典音楽) 歌三線、琉球箏曲

注5. 弦楽コースのヴァイオリンを第1志望とする入学志願者は、第2志望としてヴィオラを受験することができる。その場合には、第1志望の試験科目の他に第2志望の実技検査を受験しなければならない。

注6. 各専攻の個別学力等（実技検査を含む）については、第1次試験と第2次試験に分けて実施するが、第2次試験については、第1次試験合格者についてのみ実施する。

2 併願について

音楽学部への出願は、志願する専攻・コース（声種・楽器）を1つに限るが、以下の表に示す限りにおいては併願が可能である。

【併願可能な専攻・コース】

第2志望		音楽表現					音楽文化		琉球芸能	
		声 楽	ピアノ	弦 楽	管打楽	作曲理論	沖縄文化	音楽学	琉球 古典音楽	琉球 舞踊組踊
音楽表現	声 楽					○	○	○		
	ピアノ	○				○	○	○		
	弦 楽					○	○	○		
	管打楽					○	○	○		
	作曲理論	○					○	○		
音楽文化	沖縄文化							○	○	○
	音楽学	○					○			
琉球芸能	琉球古典音楽						○			○
	琉球舞踊組踊						○		○	

注：併願の場合には、第1志望の試験科目（専攻試験、音楽に関する基礎能力検査）に加えて、第2志望の専攻試験を受験しなければならない。

ただし、

- ①音楽学コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では音楽学コースの科目を受験すること。
- ②音楽表現専攻の各コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では、受験する音楽表現専攻各コースの試験科目を受験すること。
- ③第2志望で作曲理論コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では作曲理論コースの試験科目を受験すること。（ピアノコースを除く）

3 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声乐コース

注意事項：課題曲、自由曲とも暗譜で歌うこと。歌詞は原語で歌うこと（ただし、曲によっては通例歌われている他の外国語で歌うことも可）。

伴奏者は本学で用意する。ただし、事前の伴奏合わせはない。

時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

<課題曲>

下記の課題曲 17 曲から任意の 3 曲を選択し、入学願書に記入すること。

提出した 3 曲の中から試験当日、受験者本人のくじ引きにより 1 曲を歌う。

<自由曲>

課題曲以外の任意の曲、ただし 5 分以内とする。歌詞は原語で歌うこと。

<コールユーブンゲン>

F.Wüllner : Chorübungen 全曲の中から、当日 1 曲を指定する。

固定ド、移動ド、のどちらで歌ってもよい。

課 題 曲

①	M.A.Cesti	Intorno all'idol mio	(c-moll, d-moll, e-moll, f-moll)
②	G.B.Pergolesi	Se tu m'ami	(es-moll, f-moll, g-moll)
③	A.Scarlatti	Se tu della mia morte	(e-moll, g-moll, f-moll)
④	A.Scarlatti	Già il sole dal Gange	(G-dur, As-dur, B-dur)
⑤	G.B.Bononcini	Per la gloria d'adorarvi	(G-dur, F-dur, Es-dur)
⑥	A.Scarlatti	Sento nel core	(d-moll, es-moll, f-moll, g-moll)
⑦	F.Gasparini	Lasciar d'amarti	(d-moll, f-moll, g-moll)
⑧	F.Durante	Vergin, tutto amor	(h-moll, c-moll, d-moll)
⑨	W.A.Mozart	Das Veilchen	(E-dur, G-dur)
⑩	F.Schubert	An die Musik	(B-dur, C-dur, D-dur)
⑪	F.Schubert	Frühlingsglaube	(F-dur, G-dur, As-dur)
⑫	R.Schumann	Die Lotosblume	(Des-dur, Es-dur, F-dur)
⑬	弘田龍太郎	浜千鳥	(C-dur, Es-dur)
⑭	瀧廉太郎	荒城の月	(c-moll, d-moll)
⑮	山田耕筰	かやの木山	(C-dur, D-dur)
⑯	平井康三郎	ゆりかご	(E-dur)
⑰	高田三郎	くちなし	(F-dur)

* () 内の調は、本学が用意する伴奏用楽譜の調である。他の調で歌う場合は、希望の調の伴奏用楽譜を願書とともに提出すること。

* イタリア歌曲は外国版を使用する時は、伴奏用楽譜を提出すること。

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

注意事項：課題曲は A,B,C の順に演奏し、すべて暗譜で演奏すること。

繰り返しは省略する。時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

下記の課題曲 A,B,C についてそれぞれ任意の曲を 1 曲選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<課題曲 A>

J.S.Bach：平均律クラヴィア曲集第 1 巻または第 2 巻より任意の 1 曲
(プレリュードとフーガ)

<課題曲 B>

F.Chopin：練習曲 Op.10 または Op.25 より任意の 1 曲 (Op.10-3,Op.10-6,Op.25-7 を除く)

<課題曲 C>

L.v.Beethoven：ピアノ・ソナタ (Op.2-1～Op.90) より任意の第 1 楽章
(Op.27-1,Op.27-2,Op.49-1,Op.49-2,Op.79 の 5 曲を除く)

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。
試験曲のうち、指定した版のある曲以外は、どの版を使用しても良い。
時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

Carl Flesch : Scale system より任意の調一つを選択。

5 番（3 オクターヴの音階 Tempo は $J=80\sim100$ ）全部。

6 番（3 度の音階 Tempo は自由）冒頭 4 小節。

7 番（6 度の音階 Tempo は自由）冒頭 4 小節。

8 番（8 度の音階 Tempo は自由）冒頭 4 小節。

*フィンガリングは自由。

*スラー、リズムは C-dur に準じること。ただし重音のスラーは
一拍ずつのスラーで演奏すること。

<課題曲 A>

以下の練習曲、または、これらと同等程度以上の練習曲から任意の 1 曲を選択。

R.Kreutzer : 42 Etudes (Peters 版)

*No.1,3,5 を除く。リズムやスラーはオリジナルに準じること。

P.Rode : 24 Caprices

J.Dont : 24 Etudes and Caprices Op.35

<課題曲 B>

任意の協奏曲より第 1 楽章または最終楽章（カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したもののについては演奏すること）。

注. ヴァイオリンを第 1 志望とする志願者はヴィオラを第 2 志望とすることができる。

（その場合は、ヴァイオリン用に提出された音源によりヴィオラとしての適性等も含め評価する）

◆ヴィオラ

<音階>

C-dur の音階。Tempo は♩=80 以上

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。



<課題曲 A>

R.Kreutzer : 42 Etudes より任意の 1 曲（但しヴィオラ用の編曲）を選択。

<課題曲 B>

任意のヴィオラ協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）

◆チェロ

<課題曲 A>

Sebastian Lee : Melodische und progressive Etüden Opus31 (SCHOTT 版)

40 MELODIC STUDIES Opus31 (INTERNATIONAL 版)

より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

任意のチェロ協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）

◆コントラバス

<課題曲 A>

F.Simandl : 30 Etudes より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

任意のコントラバス協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

注意事項：無伴奏で演奏すること。暗譜でなくてもよい。

時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

【木管楽器】

◆フルート

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① E.Koehler : 35 Exercises op.33 第2巻 (12 Medium Difficult Exercises) より No. 1, 5, 6, 8, 10, 12
の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由)
- ② W.A.Mozart : Concerto in D major K314 より 第 1 楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆オーボエ

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F.W.Ferling : 48 Etudes op.31 より No.1~No.6 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由)
- ② J.Haydn : Concerto in C major Hob.VIIg:C1 より 第 1 楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆クラリネット

<音階>

R.Eichler : Scales for Clarinet 全長調の 1 番の中から演奏する。

調、アーティキュレーションは当日指定する。

(国立音楽大学教育出版部)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Rose : 32 Etudes より No.13～No.20 の中から 1 曲を当日指定する。(Leduc 版)
- ② C.M.v.Weber : Concertino für Klarinette und Orchester Es-dur op.26 J.109
(版は自由)

◆ファゴット

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① J.Weissenborn : Studies for Bassoon op.8 vol.2 より No.4,6,8,10,13,14 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A.L.Vivaldi : Concerto in la minore F#8/7 RV497 より 第 1 楽章 (Ricordi 版)

◆サクソフォーン

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F.W.Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones より No.5,6,11,12,17,18 の中から数曲当日指定する。(Leduc 版)
- ① P.Creston : Sonata op.19 より 第 1 楽章

【金管楽器】

(共通課題)

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



◆ホルン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No. 3,13,15 の中から 1 曲、No.17,26,28 の中から 1 曲
の計 2 曲を当日指定する。(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② W.A.Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.3 Es-dur KV 447 より第 1 楽章
(カデンツァを除く、Breitkopf&Härtel 版)

◆トランペット

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.8,10,12,15,19 の中から 1 曲を当日指定する。
(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② T.Charlier : Solo de Concours (Schott 版)

◆テナートロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.5,6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。
(版は自由、繰り返しなし)
- ② A.Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (版は自由)

◆バストロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。
(1 オクターヴ下げて演奏する、版は自由、繰り返しなし)

② A.Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (Reift 版)

※テナー用の原曲を完全 4 度低く移調したバス・トロンボーン用の編曲で演奏すること。

◆チューバ

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① C.Kopprasch : 60 Studies より No.3,10,14,15,19,20 の中から 1 曲を当日指定する。

(Robert King 版、繰り返しなし)

② J.S.Bach : Air and Bourrée (W.J.Bell 編曲 Carl Fischer 版)

※使用楽器は、B♭、C、F 管のいずれかとする。

◆打楽器

打楽器 (A)、打楽器 (B) のどちらかを選択し入学願書に記入して届け出ること。

打楽器 (B) で受験する者は課題曲②の記号と曲名を入学願書に記入すること。

打楽器 (A) 小太鼓

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、七つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲> 次の①、②、③を演奏する。

① W.F.Ludwig : Collection Drum Solos より 17~19 ページの中から数曲を当日指定する。

(Ludwig Music Publishing 版)

② A.J.Cirone : Portraits in Rhythm 50 Studies for Snare drum より No.3,6,13,31 の中から 1 曲を当日指定する。(YMM 版)

③ M.Gordenberg : Modern school for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より I (Chappell & Co 版)

打楽器 (B) マリンバ

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



＜小太鼓 基礎打ち＞

二つ打ち、五つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。（小太鼓を使用して演奏、響き線無し）

＜課題曲＞次の①、②、③を演奏する。

① M.Goldenberg : Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より V、
XII、XIV、XVIIIから1曲を当日指定する。（Chappell & Co 版）

② J.S.Bach : Sonaten und Partiten für Violine Solo BWV1001-1006

イ～ハの中から任意の1曲を選択して演奏する。（版は自由、繰り返しなし）

イ : Sonata I より Fuga Allegro (55小節目1拍目まで)

ロ : Partita I より Tempo di Bourree

ハ : Partita III より Gavotte en Rondeau

③ W.F.Ludwig : Collection Drum Solos より 8ページ Col.Andrews'
(Ludwig Music Publishing 版)

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

＜実技検査＞

筆記試験…90分

和声課題の実施（所用時間90分）。ソプラノ課題およびバス課題を四声体で実施する。

＜口述試験＞

実技検査で実施した和声課題、出願者自身の作曲または編曲作品の楽譜、音楽への意欲などに関する質疑を実施する。

提出作品には、ソナタ形式の作曲作品を1曲以上含むこと。

※提出作品の楽譜（製本せず表紙を含め、無記名）は出願書類と一緒に、提出すること。なお、口述試験の際に、提出した楽譜コピーを持参すること。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

＜小論文＞

次の課題図書に基づいて出題し、論述を求める。(90 分)

【課題図書】

増野亜子『声の世界を旅する』（音楽之友社、2014）

＜口述試験＞

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書を必ず持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

＜小論文＞

次の課題図書に基づいて出題し、論述を求める。(90 分)

【課題図書】

増野亜子『声の世界を旅する』（音楽之友社、2014）

＜口述試験＞

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書を必ず持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

注意事項：課題曲、自由曲ともに暗譜で演奏すること。

調子笛は、試験官により取り扱う。

◆歌三線

<調弦>

調子笛の音高に合わせて本調子を調弦すること。

<課題曲>

かぎやで風節、上り口説（１、２、３、８番）、秋の踊【道輪口説】（１、２、３、４番）

※上記３曲の中から１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

二揚調子の古典曲または二揚調子の古典民謡から任意の曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

◆琉球箏曲

<調弦>

あらかじめ調弦された巾、為、斗、十、九の音高をもとに本調子の調弦をすること。

<課題曲>

瀧落萱攪

<自由曲>

歌物の中から任意の１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

<課題曲>

かぎやで風、かせかけ

※上記２曲の中から任意の１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

琉球舞踊、又は八重山舞踊の中から任意の１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

なお、地謡用音源は<課題曲><自由曲>ともに録音媒体（ＣＤのみ）を出願書類と一緒に提出すること。

<初見演技>

試験当日に例示する古典女踊の基本的所作を模倣して実演する。

<初見視唱>

試験当日に提示する台本の唱え（組踊「執心鐘入」から抜粋）

(10) 社会人選抜（琉球芸能専攻）

<実技検査>

試験曲は一般選抜と同様とする。

<小論文>

課題は試験当日に出題する。（90分）

<口述試験>

小論文の内容および音楽・琉球芸能に関する基礎知識についての質疑等を実施する。

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験…音楽表現専攻・音楽学コース（30分）、沖縄文化コース・琉球芸能専攻（40分）

(2) 聴音

単旋律および四声体和声の聴音。

(3) 新曲視唱

単旋律の視唱。予見時間は1分30秒。

(4) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記の課題曲①～③の中から1曲を選択し、入学願書に記入して届けること。

音階および課題曲を演奏すること。

<音階>

ハノン教則本第39番より♯♭記号3つまでの長調または短調の音階から試験当日に指定された調を演奏する。Tempo ♩=80以上。

長調は繰り返しなしで、カデンツをつけて終わる。

短調は和声的短音階を1回弾いた後、カデンツをつけずに続けて旋律的短音階を1回弾き、カデンツをつけて終わる。

<課題曲>

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の1曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の1つの楽章
(ベートーヴェンを選択する場合はOp.101～111は除く) ただし緩徐楽章は除く。

③ ツェルニー：30番練習曲 Op.849、40番練習曲 Op.299、50番練習曲 Op.740のいずれかより任意の1曲

(5) 音楽又は舞踊の実技

音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

演奏または演舞時間は、3分～5分程度とし、全体の持ち時間は準備も含めて6分以内とする。

(注意事項)

演奏は伴奏なしとする。

本学でピアノ、打楽器、マリンバは用意するが、それ以外の楽器は持参すること。ただし、コントラバスは本学で準備したものを使用してよい。

舞踊に用いる録音媒体（CD等）は事前に再生について確認をした上で出願時に提出すること。

演舞可能なスペースは、4m（幅）×4m（奥行き）×2.5m（床から天井までの高さ）程度である。特別な演出等がある場合は事前に相談すること。

＜学校推薦型選抜＞

Ⅱ 学校推薦型選抜

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・ コース名		専 攻 試 験					音楽に関する基礎能力検査					面接
		実技 検査	コールユー ブソング ン	初見 視唱	小論文	口述 試験	楽典 (注2)	聴音	新曲 視唱	副科 ピアノ	音楽又 は舞踊 の実技 (注3)	
音楽 表現	声 楽	◎	◎				◎	○	○	◎		◎
	ピアノ	◎					◎	◎	◎			◎
	弦 楽	◎					◎	○	○	◎		◎
	管打楽	◎					◎	○	○	◎		◎
	作曲理論					◎	◎	◎		◎		◎
音楽 文化	沖縄文化				◎	◎	◎				◎	◎
	音楽学				◎	◎	◎	○	○	◎		◎
琉球 芸能	琉球古典音楽	◎					◎					◎
	琉球舞踊組踊	◎		◎			◎					◎

注1：◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目を示す。

注2：沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻及び音楽学コースの楽典とは別問題とする。

注3：音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

注4：声楽、弦楽、管打楽、琉球古典音楽コース入学志願者の専攻試験の種目は以下のとおりである。

(声 楽) ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(弦 楽) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、テナー・トロンボーン、バス・トロンボーン、チューバ、打楽器 (A：小太鼓、B：マリンバ)

(琉球古典音楽) 歌三線、琉球箏曲

2 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声乐コース

一般選抜に同じ

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

一般選抜の課題曲 A,B,C に同じ

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。
時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

一般選抜に同じ

<課題曲>

任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章（カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したものについては演奏すること。）

◆ヴィオラ

<音階>

一般選抜に同じ

<課題曲>

任意のヴィオラ協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

◆チェロ

<課題曲A>

一般選抜に同じ

<課題曲B>

任意のチェロ協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

◆コントラバス

<課題曲A>

一般選抜に同じ

<課題曲B>

任意のコントラバス協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

一般選抜に同じ

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<口述試験>

出願者自身の作曲または編曲作品の楽譜及び音楽への意欲などに関する質疑を実施する。

提出作品には、ソナタ形式の作曲作品を1曲以上含むこと。

※提出作品の楽譜（製本せず表紙を含め、無記名）は出願書類と一緒に、提出すること。なお、口述試験の際に、提出した楽譜コピーを持参すること。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

テーマ「現代の社会と音楽（舞踊）との関わりについて論じなさい」

原稿用紙（400字詰め）5枚程度とし、手書きであること。

※小論文は、原本を出願書類と一緒に提出すること。

※提出した小論文のコピーを必ず取っておくこと。

<口述試験>

小論文の内容に関する質疑等を行う。

※提出した小論文のコピーを試験当日に持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

テーマ「現代の社会と音楽（舞踊）との関わりについて論じなさい」

原稿用紙（400字詰め）5枚程度とし、手書きであること。

※小論文は、原本を出願書類と一緒に提出すること。

※提出した小論文のコピーを必ず取っておくこと。

<口述試験>

小論文の内容に関する質疑等を行う。

※提出した小論文のコピーを試験当日に持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

一般選抜に同じ

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

一般選抜に同じ

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験…音楽表現専攻・音楽学コース（30 分）、沖縄文化コース・琉球芸能専攻（40 分）

(2) 聴音

一般選抜に同じ。

(3) 新曲視唱

一般選抜に同じ。

(4) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記①～③の中から 1 曲を選び演奏する。

<課題曲>

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の 1 曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の 1 つの楽章
（ベートーヴェンを選択する場合は Op.101～111 は除く）ただし緩徐楽章は除く。

③ ツェルニー：30 番練習曲 Op.849、40 番練習曲 Op.299、50 番練習曲 Op.740 のいずれかより任意の 1 曲

※一般選抜に課されている<音階>は演奏しない。

(5) 音楽又は舞踊の実技

一般選抜に同じ

令和5年度

試 験 曲

音楽学部個別学力検査等

令和4年8月 発行



沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

〒903-8602

沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地

電話 098-882-5080（教務学生課）

<http://www.okigei.ac.jp>